



『FTR セミナー 2025』開催のご案内

2025年11月11日(火) 横浜ベイホテル東急

お客様各位

拝啓

清秋の候、皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、株式会社富士テクニカルリサーチ（FTR）は、「AIとDXで解き放つ、日本のものづくり革命への挑戦」をテーマに、「FTR セミナー2025」を開催いたします。本年は、弊社が得意とする“お客様の課題解決に寄与するシステム開発”の最新実績に加え、継続的に開発を進めております点群処理ソフトウェア『Galaxy-Eye Modeler』、およびDXシステム『Galaxy-Eye Connect』について、実際のユーザー様よりご講演をいただきます。これらの活用事例が、皆様の業務課題解決の一助となれば幸いです。

基調講演では、近年めまぐるしく変化する自動車業界におけるプレス生産技術の最前線として、トヨタ自動車株式会社の野々村 潔様に「未来のプレス技術に向けた私たちの挑戦」をテーマにご講演いただきます。

また、ユーザー講演として、東海旅客鉄道株式会社様より新幹線の車輪摩耗量を自動測定可能な車輪形状測定機について。関電プラント株式会社様より、現場での3Dデータ活用や膨大なデータ管理によるDX推進の取り組みについて。倉敷紡績株式会社様より、弊社ハードウェアと組み合わせた断熱材厚み可視化ツールについて発表をいただきます。

協力会社講演として、ソフトバンク株式会社様より、今話題のデータセンターの活用方法について、最新の取り組みをご発表いただきます。このように多様な業界での最新技術動向やDX推進事例をご紹介しますので、ぜひご期待ください。

弊社からは、最新の開発状況や取り組みとして、新たに開発中の「Galaxy-Eye Episode」のご紹介、AI活用事例、3次元計測機器およびそのデータ活用事例を、最新トレンドとともに発表いたします。発表概要の詳細につきましては、次ページ以降をご参照ください。

また、会場内にはお客様の課題解決を支援する各種センシング技術を展示するスペースも設け、実機デモを通じてご体験いただけます。皆様のご来場を、社員一同心よりお待ち申し上げております。

敬具



FTR セミナー2025

～AIとDXで解き放つ、日本のものづくり革命への挑戦～

◆開催日時 2025年11月11日(火) 10:30~18:00

◆開催場所 横浜ベイホテル東急 B2 クイーンズグランドボールルーム

タイトル	
9:30	受付
10:30	開会の挨拶
10:40	【基調講演】トヨタ自動車株式会社 車体製造技術部 主査 野々村 潔 様 『未来のプレス技術に向けた私たちの挑戦』
11:20	【ユーザー講演1】東海旅客鉄道株式会社 技術開発部 DXチーム チームマネージャ 西村 和彦 様 『鉄道車両のメンテナンスを高度化・効率化する』～車輪形状自動測定装置の開発～』
11:50	昼休憩
13:00	【FTR講演1】常務取締役 技術本部長 高橋 久範 『挑戦と進化の軌跡：当社が拓く、AI・DX時代のモノづくり最前線』
13:40	【ユーザー講演2】関電プラント株式会社 原子力事業本部 原子力技術部長 田邊 一裕 様 『3D技術の実践力-原子力プラントの“見える化”から“使える化”への挑戦』
14:10	【協力会社講演1】ソフトバンク株式会社 テクノロジ-ユニット 次世代社会インフラ推進室 室長 浅沼 邦光 様 『日本の産業を“近傍AI”で再設計する—Regional Brain×デジタルツインが創る分散型インフラ』
14:40	【FTR講演2】事業開発部 部長 小石 章太郎 『生成AI』を手の内化しませんか？～製造業DXを加速する生成AI実践活用～』
15:10	コーヒーブレイク（展示会場にもお立ち寄りください）
15:40	【ユーザー講演3】倉敷紡績株式会社 化成品事業部 環境マテリアル部 断熱商品課 課長補佐 加藤 潤一郎 様 『3Dスキヤナを活用して断熱材の厚さ検査の新たな基準作りを目指す』
16:10	【協力会社講演2】株式会社 Liberaware 執行役員 成長戦略部部長 全 貴成 様 『狭小空間点検ドローン『IBIS2』が拓くインフラ・プラントメンテナンスDX』
16:40	【FTR講演3】技術企画部 要素技術開発室 GL 柴田 優 『FTR最先端計測機器による、測定・検査の効率化と自動化への道』
17:10	閉会の挨拶
17:20	展示エリア
18:00	懇親会

※講演のタイトル及び内容は予告なく変更される場合がございますので、予めご承知おきください。

※懇親会場は【横浜ベイホテル東急B2 クイーンズグランドボールルーム】となっております。お気軽にご参加ください。

お問い合わせ 株式会社富士テクニカルリサーチ

セミナー担当：柴田

TEL : 045-650-6650 (代表) Email : seminar@ftr.co.jp

▽基調講演

トヨタ自動車株式会社 車体製造技術部 主査

野々村 潔 様

＜主なる業務歴＞

1991年入社：プレス生技部で材料開発～ボデー板金部品の生産準備を担当

2006年～2013年：ボデー軽量化開発の企画推進、ホットスタンプラインの開発推進

2014年：北米車両生技部で、新レクサス工場、新車PJTの生産準備を統括

2018年：新モビリティの構造開発、生産技術開発の企画統括

2023年：現職 ボデー部品の生産技術開発を統括

『未来のプレス技術に向けた私たちの挑戦』

近年、ボデー板金プレス加工を取り巻く環境は大きく変化している。中国市場での競争激化、ギガキャストによる大型の部品一体化技術の急速な拡大など、これまで以上に付加価値の高いプレス生産技術開発が求められている。また、地球温暖化対策として、カーボンニュートラルへの対応も急務であり、従来の延長線ではなく、新たな発想でモノづくりを進化させていくことが期待されている。

これらの課題解決に向けて、より付加価値の高いボデー部品開発に取り組んでいる当社の考え方や実用化してきた開発事例を紹介し、未来を切り拓く新たな方向性を展望する。

▽ユーザー講演 1

東海旅客鉄道株式会社 技術開発部 DXチーム チームマネージャ

西村 和彦 様

＜主なる業務歴＞

1994～2004年 JR東海入社、新幹線車両部門で車両設計などを担当

2005～2020年 開発部門で新型車両やメンテナンスの技術開発、地震対策などを担当

2021～2022年 日本車両製造株出向 鉄道車両設計管理などを担当

2023年～ JR東海 開発部門でDXに向けた技術開発や人材育成を担当

日本機械学会会員、日本鉄道接触力学会理事

『「鉄道車両のメンテナンスを高度化・効率化する」～車輪形状自動測定装置の開発～』

労働力人口の減少を見据え、鉄道業界においても一層効率的な業務運営が求められている。当社では、安全で安定した輸送を確保する前提のうえ、鉄道のメンテナンスを高度化・効率化する技術開発を進めている。その取り組みのひとつとして、車輪の摩耗状態を自動で把握できる「車輪形状自動測定装置」を開発した。装置は屋外に設置でき、装置には列車の通過速度80km/hまで測定できる国内初の技術を搭載している。車輪の摩耗状態を自動で把握しその状態に応じて適切な時期に車輪を削正することで、乗り心地の維持・向上が可能となり、また車輪削正頻度の高い在来線電車では、その頻度を減少させ低成本化が可能となる。当社では本装置を2025年度から順次導入する予定である。

▽ユーザー講演 2

関電プラント株式会社 原子力事業本部 原子力技術部長

田邊 一裕 様

＜主なる業務歴＞

1987年：関電興業(株)入社_放射線管理業務（関電美浜ほか）

1992年：機械関係施工計画・施工管理業務（美浜・高浜・大飯ほか）

2004年：関西電力グループ企業再編_関電プラント(株)入社

2014年：廃止措置計画策定業務

2022年：(現在) 技術開発・技術検証など現場適用検討業務

『3D 技術の実践力-原子力プラントの“見える化”から“使える化”への挑戦』

現場作業責任者としての原子力発電所の保守から廃止措置に至る業務に携わる中で、3D 技術の知見や Galaxy-Eye Modeler との出会いは、今後の業務革新に向けた大きなヒントとなりました。これらの経験を活かし、設備保全を担う立場から現場工事の施工計画・施工管理への Galaxy-Eye Connect の活用を検討し、点群データの“見える化”から“使える化”への転換、管理ツールとしての活用を目指しています。本講演では、運転中プラントから廃止措置プラントまで、3D 技術が現場にもたらす価値と、今後のさらなる展開の可能性についてご紹介します。

▽協力会社講演 1

ソフトバンク株式会社 テクノロジーコンソーシアム統括 次世代社会インフラ推進室 室長

浅沼 邦光 様

＜主なる業務歴＞

『日本の産業を“近傍 AI”で再設計する—Regional Brain×デジタルツイングが創る分散型インフラ』

日本産業は「2025年の崖」、人材・設備の同時劣化、GX／SCX 外圧などのポリクリシアに直面している。その本質は“距離”的問題——現場と AI の距離、企業間データの距離、意思決定の距離である。ソフトバンクは、全国分散型 AI データセンター

「Regional Brain」により、現場近傍で推論・制御を行う新しい社会インフラを提案する。AI エージェントやリモートセンシングなどの技術で産業現場を可視化し、スマート保安、広域 3D 監視、自律モビリティを実装。7 抛点 Pre-RB から始まる実証を通じ、産官学連携による日本初の産業クラスター共創を提案。

▽ユーザー講演 3

倉敷紡績株式会社 化成品事業部 環境マテリアル部 断熱商品課 課長補佐

加藤 潤一郎 様

＜主なる業務歴＞

2022～現職

『3D スキャナを活用して断熱材の厚さ検査の新たな基準作りを目指す』

建築物の省エネ性能が社会的に強く求められる中、断熱材の施工品質、特に現場発泡ウレタン工事においては均一な厚さの確保は極めて重要です。しかし従来の点計測による厚さ検査では、測定個所が原敵的で全体の品質を正確に把握することが困難でした。

当社ではこの課題を解決する為、新たに3Dスキャナを導入し、面でウレタンの厚さを出来るだけスピーディかつ高精度に測定する計測方法を確立しました。これにより、全体の厚さ分布を可視化し、データに基づいた客観的な品質管理が可能となります。

本講演では3Dスキャナの具体的な活用事例などをご紹介します。

この取り組みが業界の新たな標準となり、建物全体の性能向上に貢献する事を目指します。

▽協力会社講演 2

株式会社 Liberaware 執行役員 成長戦略部部長

全 貴成 様

＜主なる業務歴＞

①オリックス株式会社

2015年～法人営業部として、大手通信企業向けの大型ファイナンス案件等を手掛ける

2017年～通信NW事業部にて、大手通信企業と協業し、新規事業の推進業務に携わる

2019年～新規事業部にて、CVC・M&A・新規事業の立ち上げに従事

　　社内新規事業公募制度において、初代最優秀賞を受賞

②株式会社 Liberaware

2020年～国内・海外事業開発・営業・資金調達を推進

　　Series B資金調達、JR東日本GrとのJV設立や韓国事業立ち上げを主導

2024年～成長戦略部を発足し、執行役員として事業開発・製品企画を統括

『狭小空間点検ドローン『IBIS2』が拓くインフラ・プラントメンテナンスDX』

Liberawareは、超狭小空間点検ドローン「IBIS2」と、撮影データをもとにしたデジタルツイン技術で社会インフラの維持管理のDXを推進する企業です。大手インフラ・プラント企業と連携し、狭くて・暗くて・危険な環境の点検を安全かつ効率的に実現。高精細映像による劣化箇所の可視化や、点検履歴のデジタル管理を通じて、従来の人手中心の点検を大幅に効率化しています。特に、昨今社会課題となっている下水道分野では、作業時間を短縮し、作業員の安全性向上にも寄与しています。

本講演では、こうしたドローンとデジタルツインによる社会インフラDXの取り組みと、下水道をはじめとする具体的な活用事例をご紹介します。

▽FTR 講演 1

常務取締役 技術本部長 高橋 久範

『挑戦と進化の軌跡：当社が拓く、AI・DX 時代のモノづくり最前線』

当社は、デジタルエンジニアリングを核に、AI や DX など最新技術を絶え間なく取り込み、新しいソリューションを創出してまいりました。

本講演では、モノづくり業界への貢献を目指した当社の取り組みの軌跡と、AI・DX を取り入れた具体的なソリューション事例をご紹介します。特に、生成 AI をエンジニアリング業務、図書管理、教育、人財採用といった分野へ適用した実践例に焦点を当て、その効果と可能性を広く解説いたします。

デジタル変革の最前線で、いかにして新たな価値創造に挑戦しているか、当社の戦略と成果をご覧ください。

▽FTR 講演 2

事業開発部 部長 小石 章太郎

『「生成 AI」を手の内化しませんか？

～製造業 DX を加速する生成 AI 実践活用～』

製造業における生成 AI 活用の鍵は、自社でコントロールできる環境を構築することであります。

本講演では、セキュアに社内データを活用するオンプレミス型 RAG システム「Galaxy-Eye Episode」を中心に、製造業に特化した生成 AI 活用の実践例をご紹介します。

さらに、30 年以上製造業の現場と向き合ってきた FTR だからこそ提供できる、現場視点の伴走型 AI 開発コンサルティングサービスもご紹介。VLM によるベテラン技能の定量化など、「課題が明確でない」段階から始められる実践的アプローチをお示しします。

▽FTR 講演 3

技術企画部 要素技術開発室 GL 柴田 優

『FTR 最先端計測機器による、測定・検査の効率化と自動化への道』

当社は、お客様のモノづくり現場での困りごとを解決するためのソリューションとして、様々なハードウェアを取り扱っております。これらの最新情報をご紹介します。また計測・検査など、これまで人の経験に頼っていた工程を、FTR のハードウェア群を組み合わせることで自動化へとつなげる取り組みが進んでいます。本講演では、FTR ハードウェアの特長と、実際に自動化ラインや自動検査システムに展開した事例を交えて、最新動向をご紹介します。